

令和6年度(2024年度)農林水産常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和6年(2024年)8月27日(火)
- 2 視察者 農林水産常任委員会(6名)
吉田孝平(委員長)、前田敬介(副委員長)、岩中伸司、
増永慎一郎、亀田英雄、斎藤陽子

3 視察の概要

(1) 有限会社宮川洋蘭

有限会社宮川洋蘭は、昭和47年から洋蘭栽培を開始。平成6年に法人化し、贈答用から家庭用まで多種多様な洋蘭の生産販売をはじめ、ボトルフラワーの制作などの6次産業化にも積極的に取り組んでいる。平成11年の全国農業コンクールにおいて農林水産大臣賞(経営部門)を受賞したほか、これまで多くの賞を受け、メディアにも多数取り上げられている。

今回の視察では、同社の洋蘭の生産販売の現状と戸馳島における地域活性化の取組について説明を受けた。

同社から、これからの農業は生産するだけでは難しいと思い、2007年にネット販売を始め15年以上続けている、今後は洋蘭栽培だけでなく、戸馳島を中心に観光農園事業など様々な取組を展開していきたいとの説明があった。



(2) 株式会社イノP

株式会社イノPは、急増する鳥獣被害に危機感を持った若手農家25人が平成28年に結成した「くまもと☆農家ハンター」を母体としており、その後、イノシシの捕獲量が増えたことをきっかけにジビエ施設を整備し、その運営会社として設立された。

今回の視察では、同社の鳥獣害対策の取組について説明を受け、施設を見学した。

同社から、最初はイノシシを捕獲することができなかったが、失敗と苦労を重ね、箱わなやIoT機器等を活用



した捕獲方法により捕獲数が増えていき、全国から注目されるようになった、今後は鳥獣害対策のDX化を進めていきたいなどの説明があった。

(3) 県漁業取締事務所

県漁業取締事務所では、漁業法や熊本県漁業調整規則等に基づき、漁業に関する違反の未然防止と漁業違反者の取締りを行っている。

漁業取締船「あそ（110トン）」「あまくさ（27トン）」と漁業取締艇「ひかり（2.9トン）」を駆使して、変則勤務や業務の効率化を図りながら、昼夜を問わず県下海面で取締りを遂行している。

今回の視察では、漁業取締りの現状及び代船建造について説明を受け、取締船「あまくさ」の船内を見学した。

同事務所から、これまでの取締船による監視、取締りに加え、今年度からはドローンを導入した監視強化を図っている、また、昨年度に退役した「ひご」と令和7年度退役予定の「あまくさ」の代船として総トン数69トン、最大速力40ノットの取締船1隻の建造を進めているとの説明があった。



(4) 大口西部地区畑地帯総合整備

宇城市の大口西部地区は、平成28年度に農業競争力強化基盤整備事業にて採択され、区画整理工 A=13.8ha 及び農道整備工 L=1,537m を実施中である。

本地区の区画整理工では、農地への客土や暗渠排水及び排水機場の設置を行い、水田の排水性を向上させることで、水田を樹園地に転換し、地域の特産である温州みかんや不知火等の生産拡大及び担い手への農地集積を進めている。

今回の視察では、区画整理工及び農道整備工の進捗状況及び今後のスケジュールについて説明を受けた。

執行部から、令和8年度の完了に向け、これまでに排水機場及び区画整理の工事が完了しており、今後、防風ネットやファームポンド等の工事を予定しているとの説明があった。



(5) 株式会社エバーフィールド木材加工場

株式会社エバーフィールドは、「高機能・高性能な木造住宅で住む人の健康と地域環境を守る」とのコンセプトの下、住宅を中心に商業施設や店舗の建築を手掛けており、小国杉などの県産材を積極的に活用することで地域の林業振興に取り組んでいる。

今回の視察では、小中断面の県産流通材で造られた木造大架構建築である同社の木材加工場及び令和5年度木材利用優良施設コンクールで熊本県木材事業協同組合連合会賞を受賞した同敷地内にある打合せ棟について説明を受け、木材加工場及び打合せ棟を見学した。



同社から、木材加工場は県のアートポリスのプロポーザル案件であり、審査の過程では建築は難しいという意見があったが、関係者が試行錯誤しながら完成させたとの説明があった。